

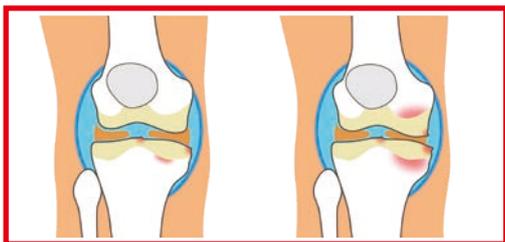
Pick UP!

整形外科 APS療法とPRP療法を導入しました。

整形外科では2023年12月からAPS療法・PRP療法を実施しています。いずれも人間に本来備わっている自己治癒力を活かした治療法です。

変形性ひざ関節症治療の新しい選択肢「APS療法」

APS療法(Autologous Protein Solution Therapy)は、患者さん自身の血液から炎症を抑える効果があるタンパク質や軟骨を守る成長因子を抽出し、損傷部位に注入する治療法です。下記で紹介するPRP療法より有効成分を高濃度で抽出し、次世代PRP療法とも呼ばれています。特に変形性ひざ関節症の方に有効であり、ヒアルロン酸注射では効果が薄れてきたものの、まだ人工関節手術が必要でない方に適しています(図のグレード1・2)。ただし、すり減った膝の軟骨を再生させるわけではありません。



グレード1

グレード2



グレード3



グレード4

図:変形性ひざ関節症の画像による分類

効果には個人差がありますが、炎症や痛みの改善が期待できます。従来の薬物療法やヒアルロン酸注射といった保存療法で効果が得られない方や、様々な事情で手術をさけたい方にとって新しい選択肢となる治療法です。

適応となる疾患 変形性ひざ関節症

費用 変形性ひざ関節症に対する多血小板血漿抽出液(APS)関節内投与療法(第2種)
330,000円(税込)※保険診療の適応外のため、自費診療です。

筋肉・アキレス腱炎・靭帯損傷に対する「PRP療法」

PRP療法(Platelet-rich plasma)は、患者さん自身の血液から炎症を抑える効果があるタンパク質や軟骨を守る成長因子を抽出し、損傷部位に注入する治療法です。当院ではより高い効果が期待できるLR-PRPを採用しています。効果には個人差がありますが、炎症や痛みの改善が期待できます。

適応となる疾患 主にスポーツ等で痛めた筋肉・腱・靭帯の損傷を対象にしています。従来の保存療法で効果が得られない方や手術をさけたい方にとって新しい選択肢となる治療法です。しばらく治療をしても痛みが取れないスポーツ外傷・障害もご相談ください。

費用 多血小板血漿(PRP)を用いた整形外科領域(関節腔内への投与を除く)の治療(第3種)
110,000円(税込)※保険診療の適応外のため、自費診療です。

APS・PRP療法の流れ



※採血から注入までは1時間程度で終わり、入院の必要はありません。

APS・PRP療法をご希望される場合は、まず整形外科に受診・相談してください。

受付時間

整形外科

月～土 8:30～11:00 第2土曜は休診